

令和7年度 嶺北森林管理署の重点施策

～ 地域の林業成長産業化に向けた取組 ～

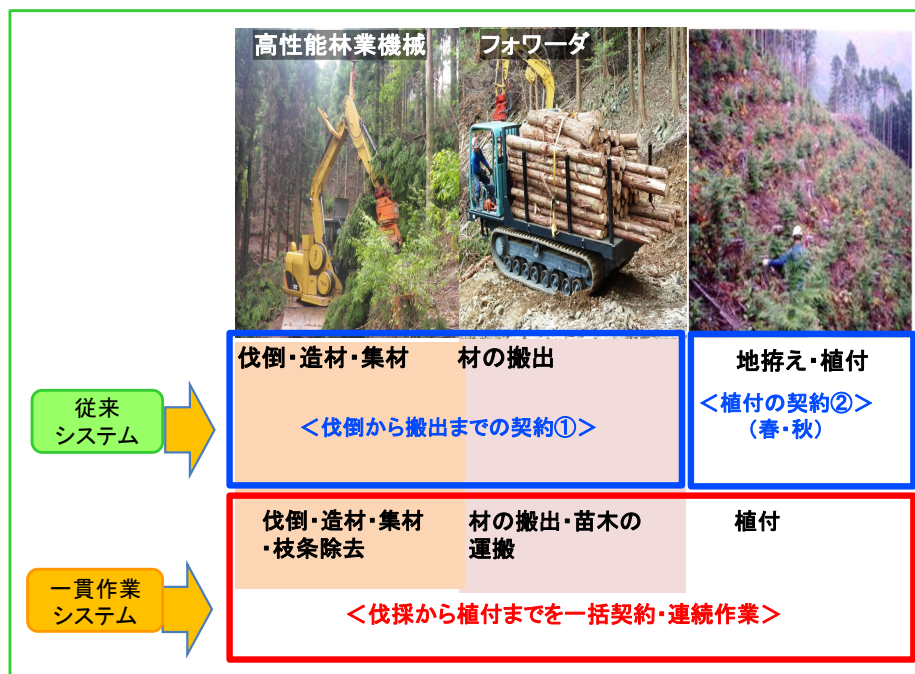
令和7年4月

嶺 北 森 林 管 理 署

1 伐採・造林の一貫作業によるコスト削減と 複数年契約による安定した事業量の確保・事業体の育成

- 伐採・搬出から植栽の作業を一括発注する「一貫作業」を2地区、香美市(向山)、いの町(長沢山)で実施。伐採から造林事業のトータルコスト削減を推進。また、「伐って、植える」ことにより、確実に造成していく。
- 複数年契約を2地区、土佐町(一ノ谷山)、いの町(皆又谷山)で実施し、複数年に渡る安定した事業量の確保、経営・雇用の安定や事業体の育成に取り組む。

■一貫作業システムと従来システム



■令和7年度 一貫作業実施地区(誘導伐・保護伐＋植栽)

所在地	国有林名	面積(ha)	備考
香美市 いの町	向山 長沢山	8.45 2.50	一括発注 一括発注

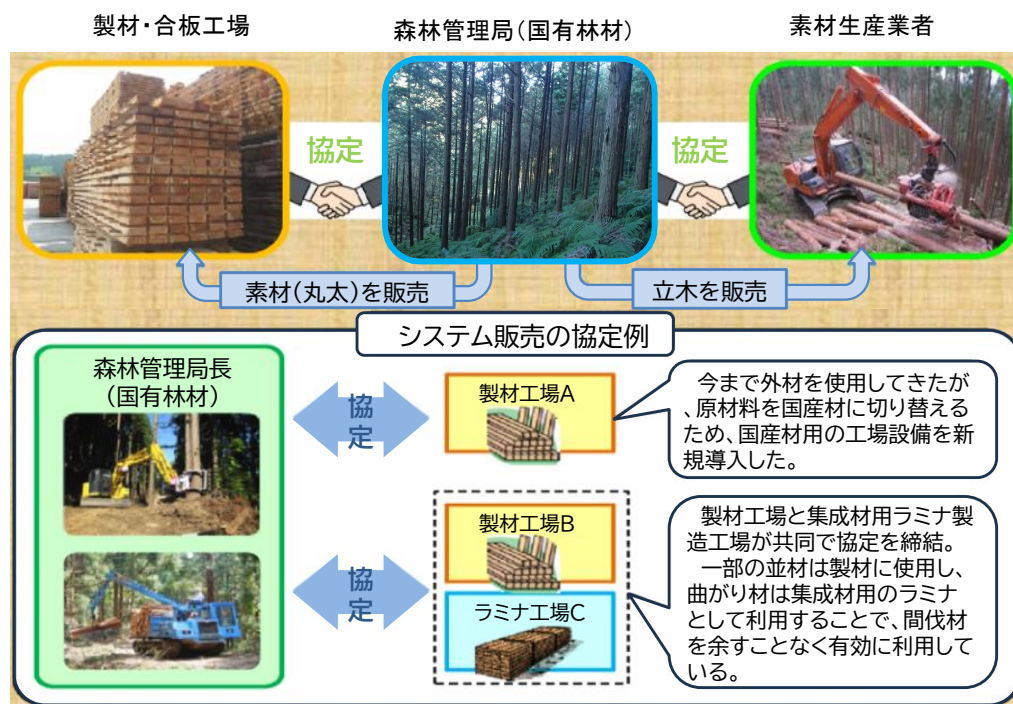
■令和7年度の複数年契約実施地区

事業年度	所在地	国有林名	面積(ha)	予定数量(m³)
R6～8年度 (3か年)	土佐町	一ノ谷山	111	9,000
R7～8年度 (2か年)	いの町	皆又谷山	51	7,000

2 国有林材の安定供給

- 民有林と国有林の連携、立木販売の強化等により、国有林材28.8千 m^3 (素材(丸太)換算)を安定供給
R6年度実績28.8千 m^3 (素材20.2千 m^3 、立木8.6千 m^3) → R7年度33.2千 m^3 (素材23.7千 m^3 、立木9.5千 m^3)
- 民国連携した3つの森林共同施業団地からの安定供給(住友林業、香美森林組合、高知県)

■ 国有林材の安定供給システム販売の仕組み



■ 嶺北署管内における素材生産の様子



■ 嶺北署の国有林材の供給量

(千 m^3)

	R2	R3	R4	R5	R6	R7
供給総量	18.8	19.1	18.1	19.8	28.8	33.2
素材販売	18.8	19.1	18.1	16.1	20.2	23.7
システム販売	18.0	17.8	17.3	10.2	13.3	10.7
立木販売 (製品換算70%)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5.3 (3.7)	11.8 (8.6)	13.6 (9.5)

※R2～R6年度は実績値。立木販売の素材(丸太)換算率は70%

■ 3つの森林共同施業団地の概要

協定名称	締結日	市町村等	協定面積 (ha)	面積		備考
				国有林 (ha)	民有林 (ha)	
いの町本川地域(戸中、葛原)の森林整備の推進に関する協定	H21. 8. 6 H26. 3.20 H31. 3.28 R 6. 3.29	住友林業(株) 新居浜山林事業所	305	220	85	戸中団地
			430	271	158	葛原団地
南国市中ノ川地域の森林整備推進に関する協定	H23. 8. 4 H27. 3.19 R 2. 3. 9 R 6. 3.28	香美森林組合	1,627	533	1,095	
大豊町立川地区の森林整備の推進に関する協定	H27. 9. 4 H31. 3.29 R 6. 3.29	高知県林業振興・環境部	603	290	313	

※端数処理により面積は合致しない。

3 シカ・ノウサギ等による被害対策の推進

- 民国が一体となって被害対策を推進。平成28年1月に中江産業(株)と締結した「ニホンジカによる森林被害防止協定」により、いの町内の社有林・国有林へ「くくりわな」を設置し、一体となってシカ捕獲を実施。
また、職員による囲いわな・くくりわな等でのニホンジカの捕獲を実施。
近年ではノウサギによる被害も増加しており、防護ネットの設置や単木保護を実施。

■ 協定によるニホンジカの捕獲頭数の推移

(単位:頭)

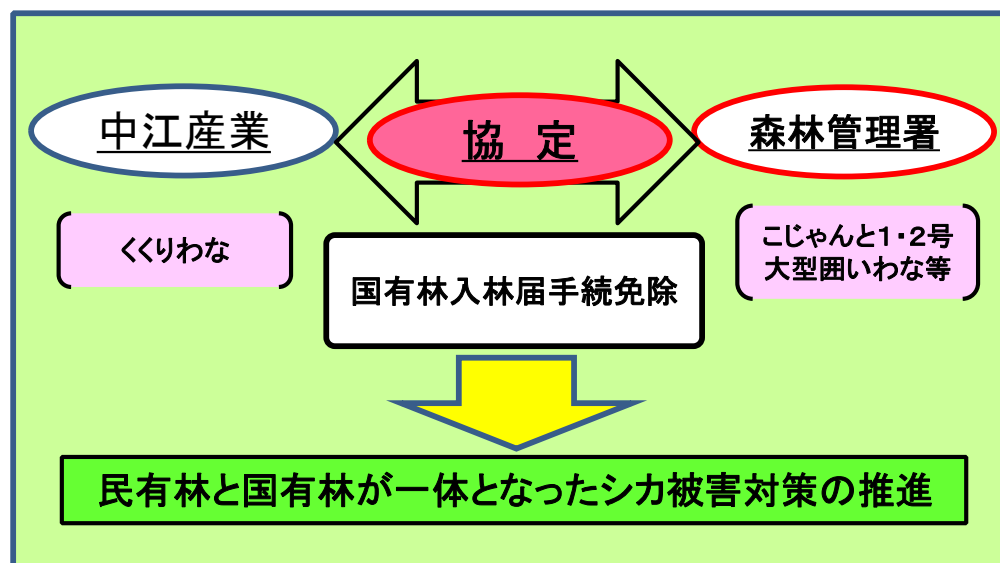
H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
70	44	117	99	133	126

■ 職員によるニホンジカの捕獲頭数の推移

(単位:頭)

H31 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
104	64	77	75	90	114

■ シカ被害対策連携協定



■ 獣害対策の例



(防護ネット)



(単木保護)



(大型囲いわな)



(こじゃんと2号)

4 地域の安全・安心を守る山地防災力の強化

○ 近年の大雨や短時間強雨の増加により、大規模、多発化している自然災害から地域の安全・安心を確保するため、本年度は20か所で治山事業を実施。(R6年度17か所15.1億円 → R7年度20か所16.7億円)

また、令和3年度より着手している吉野川上流地区民有林直轄治山事業においては、高知・徳島両県を跨ぐ広範囲の山腹崩壊等の復旧に継続的に取り組み、地域の方々が安心して暮らせるよう早期復旧に取り組む。

■ 平成30年7月豪雨による被災箇所



大豊町立川



復旧状況(崩壊下流部対策工)

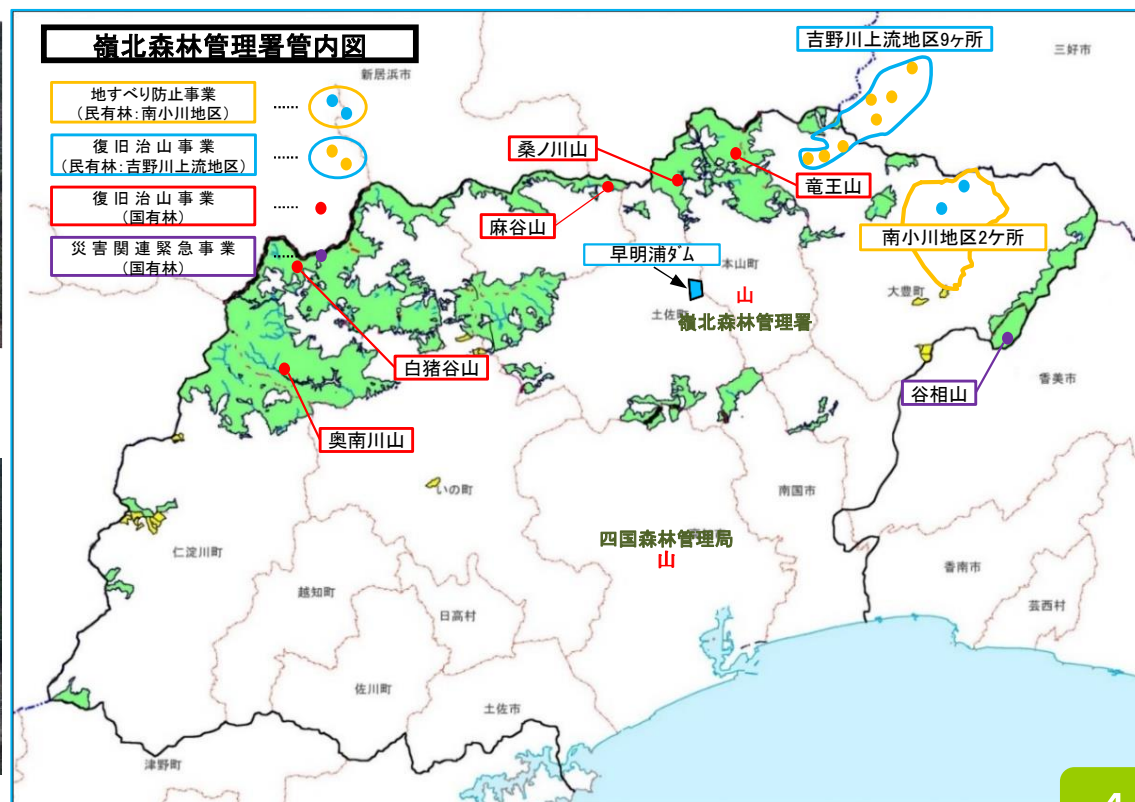


三好市根津木



復旧状況(山腹工施工状況)

■ 令和7年度 嶺北署管内の復旧治山事業・地すべり防止事業の実施予定地区



5 森林環境教育等の実施

- 嶺北地域唯一の高校である県立嶺北高校の活性化のため、毎年、生徒に森林・林業に関する講義と現地見学等の森林環境教育を実施し、活動を支援。
- 県内小学生を対象として、高知県の森林・自然資源の場所や特徴、それらに関する知識や言い伝えを知ってもらうことを目的とした手作りすごろく「高知の自然！大発見すごろく」を作成し、大豊町立大豊学園、本山町立吉野小学校、高知市立一ツ橋小学校、土佐町立土佐町小学校の4校で森林環境教育を実施。引き続き「高知の自然！大発見すごろく」を活用し、森林環境教育を実施する。
- 平成29年11月に四国森林管理局と高知県は、林業・木材産業を担う人材育成に向けた連携及び協力に関する協定を締結し、高知県立林業大学校の実習について講師の派遣や実習時のフィールドの提供を行うこととしており、嶺北森林管理署においてもこの取組に参加。



嶺北高校講義の様子(ドローン操縦)



小学校でのすごろくを使った授業の様子



林業大学校講義の様子

6 CLT庁舎を活用した木材利用の促進

- 国の庁舎として、初めて本格的にCLTパネル工法を採用して建築された庁舎を活用して、公共建築物をはじめとする一般建築物への木材利用の促進に努める。
また、視察や学校教育等での見学会の受け入れを通じて、森林の大切さや木材の効果についてPRする。

■ 嶺北森林管理署CLT庁舎



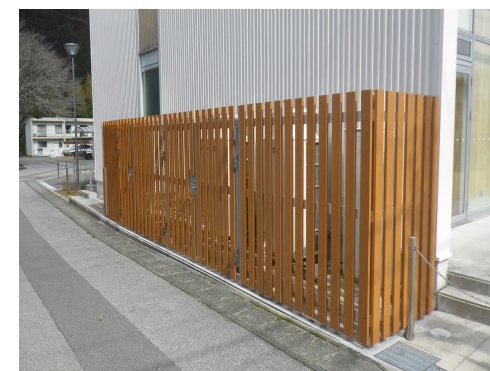
■ 木材の使用状況



CLTの使用状況(2階)



CLT内壁と床サクラ材(2階)



広葉樹のCNFシーラー(セルロースナノファイバー)をコーティングしたフェンス

○ 植物学者・牧野富太郎博士が白髪山国有林を歩いた足跡がこのたび四国森林管理局にてパンフレットにとりまとめられたので、嶺北地域の植物多彩な魅力ある国有林の宣伝活動を行う。

林野庁
四国森林管理局

「高知林友」※2に、牧野博士と行動を共にした当時の職員が記録を残していました。

昭和9年8月

5日 高知発、田野貯木場を経由し、
魚梁瀬営林署管内の西川事業所泊

6日 千本山保護林で指導調査、
魚梁瀬営林署管内の石仙泊

7日 午前、石仙で採集・鑑定の上、午後高知へ

8日 高知から本山を経由して、
本山営林署管内の白髪山作業所泊

9日 白髪山国有林で指導調査し、本山町泊

10日 燗山山の植物調査を行い、高知に戻る



自らを「植物の精」と呼んだ博士像そのままに、植物の採集や指導にあたったり、植物を愛する様子が克明に書かれており、職員が牧野博士から感銘を受けた様子が伝わってきます。



高知林友 第172号(昭和9年10月)

殊に先生の植物に対する愛着心から、研究の熱心なる真に学者としての態度に感嘆惜能はざる處があらうのであります。私たちは多くの植物を救つた以上に、植物と心を通ずるという先生の真摯な研究態度を目の当たりに見て我々の研究の足らざるを取正すとともに或一つの大きな教訓を享けた次第であります。

それから尚敬服させられたのは先生の植物に対する愛護の態度で、先生は一本一草、一葉一茎と雖も決して無意味に損ねないのであります。総て研究のための採集であるこの御考を常に持たれている点があり、とりとけがわれることでもあります。又其の珍奇な物は決して能くさないように保存されるという御心を常に持たれていることでもあります。

“流石は植物界の泰斗だナ—”の感念にみんなの顔には緊張の色が
 褪ました。其の偉大な権威者に接し、其の熱心さに驚異した。そして
 眞の学者の如何なるものかを我々の脳裡に深く印象付けられ、植物
 研究以外に何かを我々に与えて下さったことに感激した。

四国森林管理局には、大正～昭和初期の林業関係の写真帳が保存されており、当時の林業活動の様子をうかがい知ることが出来ます。牧野博士が訪れた所に撮られた写真ではありません（博士訪問の10～20年程度前の様子と推定。）が、牧野博士が訪れたとされる場所の写真も残されています。本誌では、この林業遺産の写真とともに、博士の行程をご紹介します。



千本山保護林 (現・高知県馬路村)	白髮山保護林 (現・高知県本山町)
----------------------	----------------------

白髪山保護林は、江戸時代までの天然ヒノキの利用の歴史を経てなお残る美林として、大正4年10月に、保護林制度に基づく学術参考保護林に指定されました。

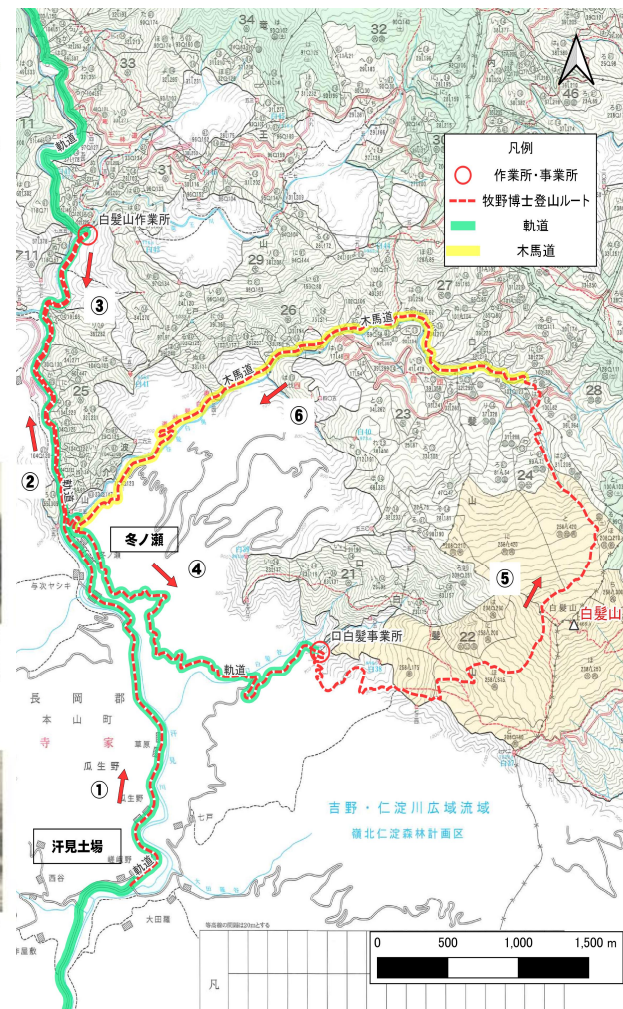
当時の営林署の山仕事の拠点。相当数の作業員を宿泊、共同生活させながら、伐採や造林作業が行われていたようです。
上段は事務所及び社員宿舎、下段は人夫小屋と物品供給店だったそうです。

当時、チェーンソーは無く、人力での伐採が行われていました。写真はケヤキを「三ツ紐伐り」という方法で伐採している様子です。
(現・高知県本山町 龍王山国有林)

白髪山作業所との間には軌道が通じ、そこから運ばれてきた丸太や木炭を収容していました。丸太はこの下流から吉野川を流送(丸太を1本ずつ、途中からは筏に組み直し)、徳島市に搬送さらに阪神市場に出荷されていました。

八月八日、本山に着いたのが午前十時半、昼食後三井川畔をガッパ機関車にて午後五、六時下山、途中採集したものを本寮裏手に午後五時過ぎ着いた。

翌九日白髪頂より早朝出発し、途中スダゲの区別峠を越え、午後七時先住後生の人物論的な特徴を拝読し、常にさつきつゝ坂を打たれてゆく。今日も随分難行難進なので午後三時半正に頂上には達しないが、それならよい。保護林の中を渡りて巨釜と出で、やむなく急流を下りて頂上を極め北麓を下りて本寮に着いたのは午後五時、それより強雨の中を下って午後七時過ぎ本山町に着く。今日の旅の最後の一皮を明かすことができた。



※1 高知森林局：現在の四国森林管理局の前身となる組織で、四国4県の国有林を管理・経営していました。

※2 「高知林文」：大正3年7月に刊行された高知市史が元発足した。毎1頁「高知林文」誌を発行し、機関相互の意思疎通、知識伝播・情報提供を深めるとともに、特に、林業発展の発展的性質をもつて出版したものとされています。
 【本文本文】高知新聞史(1972)、高知市史171号(昭和9年9月号)、第172号(昭和9年10月号)。 高知市史は新守林に、高知市史は近代市史にしております。

※1 本山営林署：現在の東北森林管理署の前身。

※ 本紙の写真は、四谷森村資料館が所蔵する「森村達彦『正・昭和初期の林業関係写真』」にあちものです。当時の林業活動の様子をうかがうことができます。牧野博士が訪れた園・採れたものではありません（主に主役達、博士訪問の昭和・20年程後の様子と推定。）が、牧野博士が訪れた場所の写真も残されています。
【参考文献】高知森林史（1972）、高知森林史第172号（昭和・9年10月号） 旧字体には現代仮名遣いにておきます。